※令和４年度以降入学生用

学校番号	2102

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	「歴史総合」（実教出版）						
副教材等	「歴史総合　演習ノート　新課程版」（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

18 世紀から 20 世紀までの日本と世界の歴史について学習します。この時代は、日本と世界が密接に関わりあいながら発展し、その中で二度の世界大戦を経験します。この流れを学習することで、国際社会に生きていくうえで必要な歴史観を養い、自国だけではなく多くの国の歴史的・文化的背景について理解できる力を育てましょう。

2　学習の到達目標

(1)我が国と世界の近現代の歴史の展開をおもに 19 世紀から第二次世界大戦にいたるまでを概観し歴史の流れを理解する。
(2)諸資料に基づき地理的条件等とも関連付けながら多面的にものごとを見ることを通じて、歴史的思考力を培う。
(3)現代社会に生きる私たちが，二度にわたる世界大戦がもたらした影響を考えながら国際社会に主体的に生きる国際人としての自覚と資質を育成することをめざす。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識：欧米諸国や日本における近代化の流れ、世界大戦の原因やその後の世界の変化を広く相互的な視野から捉え、現代社会の政治思想等に関わる歴史観を養う。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	近現代の歴史に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や戦後社会とのつながりなどに着目して、多面的に考察する。また、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明する力を養う。	近現代の歴史に関わる諸事象について、国際社会を生きるうえで必要な国家間の相互理解の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 戦後社会から現代に続く諸課題について、多面的な考察や深い理解を通して涵養される日本に生きる国際人としての自覚、自国と他国の文化を尊重することの大切さについて理解を深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期四月・後期十月	近代化への胎動	・17 世紀を含めた 18 世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通，江戸幕府の4つの窓口や周辺地域との貿易などを基に，18 世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会の成り立ちを多角的・多面的に考察する。	a：東アジアの情勢の変化が日本の鎖国体制にどのような影響を与えたかを理解している。 b：東アジアの政治・経済の発展の流れを考察し適切に表現できる。 c：日本の鎖国体制の動揺について意欲的に学習している。	単元テスト 授業プリント	課題プリント レポート	ふり返りシート 授業態度
前期五月・後期十一月	欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・18 世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸，オスマン帝国における生産と流通，アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などを基に，18 世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。	a：欧米諸国やイスラーム社会の社会変革がどのように展開されたのかを理解している。 欧米の東アジアへの進出から江戸幕府の滅亡までの流れを理解している。 b：欧米諸国やイスラーム社会の社会変革における各地域のつながりと、東アジアに与えた影響について適切に考察し、表現している。 c：世界のつながりが広がっていく過程について意欲的に学習に取り組んでいる。	単元テスト 授業プリント	課題プリント レポート	ふり返りシート 授業態度
前期六月・後期十二月	欧米諸国と日本の国民国家形成	・19 世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策，日本と欧米諸国の外交関係などを基に，19 世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解する。	a：欧州の社会の繁栄・統一について国別にその特徴を考察し理解している。 日本の明治政府が形成されていく流れと東アジア諸国との関わりについて理解している。 b：欧州国家の発展と明治政府の発展を比べ、その特徴やつながりについて考察し、適切に表現している。 c：日本と欧米諸国の近代化の過程を意欲的に学習している。	単元テスト 授業プリント	課題プリント レポート	ふり返りシート 授業態度

※令和４年度以降入学生用

前期六月・後期十二月	帝国主義の時代	・19 世紀から 20 世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き，日本と東アジアの関係，アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に，19 世紀から 20 世紀初頭にかけてのアジアの政治と社会を理解する。	a:欧米の帝国主義の進展と日本のアジア進出の流れについて理解している。 b:世界の帝国主義が進展していく中で、日本がどのような外交政策を実施したか考察し適切に表現している。 c:欧米の帝国主義の進展と日本のアジア進出の流れを理解するために意欲的に学習に取り組んでいる。	単元テスト 授業プリント	課題プリント レポート	ふり返りシート 授業態度
前期七月・後期一月	第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・大衆社会の形成・政党政治の発展、政治参加と女性の地位向上，などを歴史的な背景と結び付けて多角的・多面的に考察する。	a:第一次世界大戦の経過と大戦がその後の世界に与えた影響について、協調外交やアジアの民族運動の進展、日本の民主主義の形成などのつながりとともに理解している。 b:第一次世界大戦前後の国際情勢について世界と日本がどのように関わりあっていたかを考察し適切な意見を表現している。 c:第一次世界大戦前後の国際情勢の動きと、大戦が世界や日本に与えた影響について意欲的に学んでいる。	単元テスト 授業プリント	課題プリント レポート	ふり返りシート 授業態度
前期八・九月・後期二月	経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	a:世界に広がる経済危機がファイズム体制を生み、第二次世界大戦が勃発するまでの流れを世界と日本のつながりとともに理解している。 b:第一次世界大戦後の協調外交が経済危機によって動揺し、二度目の世界大戦が起きるまでの流れを各国の視点にたって考察し、適切に表現している。 C：なぜ二度目の世界大戦が発生したかを経済危機や各国の外交政策と結び付けて意欲的に理解しようとしている。	単元テスト 授業プリント	課題プリント レポート	ふり返りシート 授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度